

ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク編著

「キー・コンピテンシー - 国際標準の学力をめざして」を読む

- 学力とは何かを考える -

◆ 人生の成功と正常に機能する社会のためにどんなコンピテンシーが必要か？

- ・ 社会や個人にとって価値ある結果をもたらすこと。
- ・ いろいろな状況の重要な課題への適応を助けること。
- ・ 特定の専門家だけでなく、すべての個人にとって重要であること。

◆ キー・コンピテンシーの3つの広域カテゴリー

(1) 相互作用的に道具を用いること

- ・ 個人はその環境と効果的に相互作用するため広い意味での道具を活用できる必要がある。情報テクノロジーのような物理的なものと、言語のような文化的なものとの両方を含む意味での道具である。個人は相互作用的に道具を用いるためにも、各自の目的に合わせて道具を適応させるようにそうした道具をよく理解する必要がある。

コンピテンシーの内容

A) 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる能力

- ・ PISA(OECD 生徒の学習到達度調査)の読解能力(reading literacy)と数学リテラシー(mathematical literacy)、および ALL(成人のリテラシーとライフスタイル調査)で定義された計算リテラシー(numeracy)はこのコンピテンシーを具体化したものである

・ PISA の定義

- 読解力(読解リテラシー)

自らの目標を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、活用し、深く考える能力(capacity)

- 数学的リテラシー

数学が世界で果たす役割を知り理解するとともに、社会に対して建設的で関心を寄せる思慮深い市民として、自らの生活の必要に見合った方法として数学を活用し応用し、より根拠のある判断を行う能力

- 科学的リテラシー

自然の世界および人間活動を通してその世界に加えられる変化についての理解と意思決定を助けるために、科学的知識を活用し、科学的な疑問を明らかにし、証拠に基づく結論を導く能力

(参考、OECD 『PISA2003年調査評価の枠組み』国立教育政策研究所監訳、ぎょうせい)

B) 知識や情報を相互的に用いる能力

- ・何がわかっていないかを知り、決定する
- ・適切な情報源を特定し、位置づけ、アクセスする(サイバースペースで知識と情報の収集を含む)
- ・情報源に加えてその情報の質、適切さ、価値を評価する
- ・知識と情報を整理する

C) 技術を相互作用的に用いる能力

(2) 異質な集団で交流する

- ・いっそう助け合いの必要が増している世界の中で、個人は他者と関係をもてるようにする必要がある。いろいろな経歴をもった人と出会うからには、異質な集団でも人と交流できるようになることが重要である。

A) 他人といい関係を作る能力

- ・共感性 - 他人の立場に立ち、その人の観点から状況を想像する。これは、内省を促し、広い範囲の意見や信念を考える時、自分にとって当然だと思ふような状況が他の人に必ずしも共有されるわけではないことに気づく。
- ・情動と意欲の状態と他の人の状態を効果的に読み取る。

B) 協力する能力

- ・自分のアイデアを出し、他の人のアイデアを傾聴する能力
- ・討議の力関係を理解し、基本方針に従うこと
- ・戦略的もしくは持続可能な協力関係を作る力
- ・交渉する力
- ・異なる反対意見を考慮して決定できる包容力

C) 争いを処理し、解決する能力

- ・できるだけ異なる立場があることを知り、現状の課題と危機にさらされている利害(たとえば、権力、メリットの認識、仕事の配分、公正)すべての面からの争いの原因と理由を分析する
- ・合意できる領域とできない領域を確認する
- ・問題を再構成する
- ・進んで妥協できる部分とその条件を決めながら要求と目標の優先順位をつける

(3) 自律的に活動する

- ・個人は、自分の生活や人生について責任をもって管理、運営し自分たちの生活を広い社会的背景の中に位置づけ、自律的に動く必要がある。

A) 大きな展望の中で活躍する能力

- ・パターンの認識
- ・自分たちが存在しているシステムについての理想を持つ(たとえば、その構造や文化、実践、公式・非公式なルールや期待、その中で果たす役割を理解し、法律や規則、または文書化さ

れていない社会的規範や道徳作法、マナーや慣習を理解する)。こうした行為を制約する知識をもつことで権利についての理解を補う

- ・自分の行為の直接的・間接的な結果を知る
- ・個人および共通の規範や目標に照らして起こりうる結果を考えながら、違う道に至る行為から選択を行う

B) 人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する能力

- ・計画を決め、目標を定める
- ・自分が利用できる資源と必要な資源を知り、現状評価する(時間、お金など)
- ・目標の優先順位を決め、整理する
- ・多様な目標に照らして必要な資源のバランスを取る
- ・過去の行いから学び、将来の成果を計画する
- ・進歩をチェックし、計画の進展に応じて必要な調整を行う

C) 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する能力

- ・選挙などのように自分の利害関心を理解する
- ・個々のケースの基礎となる文書化された規則や原則を知る
- ・承認された権利や要求を自分のものとするための根拠を持つ
- ・処理法や代替的な解決策を指示する

(4) キー・コンピテンシーと生涯学習

- ・コンピテンシーは、生涯にわたり成長し変化する。年をとるにしたがって、コンピテンスを得ていく可能性と失っていく可能性を伴いながら
- ・各個人への社会的要求は、技術や社会経済的な構造の変化の結果として成人の人生を通じて変化することが予想される
- ・コンピテンスの発達は、青年期だけで終わるのではなく、成人期を通じても継続することを発達心理学の研究が示している。特に、枠組みの中心となる、考える能力と思慮をもって活動する能力は、成熟に伴って成長する

ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク編著、立田慶裕監訳

「キー・コンピテンシー - 国際標準の学力をめざして」明石書店 2006年5月31日刊

- 2006年9月3日記 -